

平安京の鬼門（怨霊 早良親王）

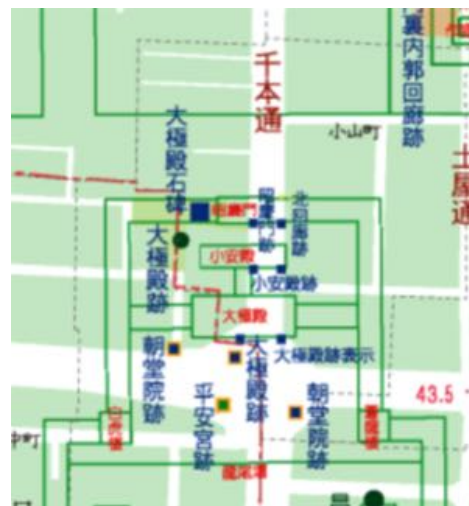


●平安京の鬼門が気になり調べてみた。すると、きれいな正三角形が現れた。

■ 氷室神社 7.455km ←←← 平安京大極殿 →→→ 崇導神社 7.455km
■ →→→ 小野神社 7.455km

平安京大極殿

桓武天皇は延暦3年（784年）に平城京から長岡京を造営して遷都したが、これは天武天皇系の政権を支えてきた貴族や寺院の勢力が集まる大和国から脱して、新たな天智天皇系の都を造る意図があったといわれる。しかしそれから僅か9年後の延暦12年（793年）の1月、和気清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。場所は、長岡京の北東10km、二つの川に挟まれた山背国北部の葛野郡および愛宕郡の地であった。事前に桓武天皇は現在の京都市東山区にある將軍塚から見渡し、都に相応しいか否か確かめたと云われている。日本紀略には「葛野の地は山や川が麗しく四方の国の人が集まるのに交通や水運の便が良いところだ」という桓武天皇の勅語が残っている。



「大極殿」の名は、万物の根源、天空の中心を意味する

「太極」に由来する。すなわち、帝王が世界を支配する中心こそ「大極殿」の意である。

崇導神社

785年（延暦4年）9月長岡京造宮使であった藤原種継が暗殺された事件に連座したとされる早良親王（崇道天皇）の霊を慰めるため貞観年間（859年～877年）に創建されたという。1915年（大正4年）に近隣にあった式内社とされる出雲高野神社・伊多太神社・小野神社の3社が合祀された。京都には、他に藤森神社や上御霊神社にも崇道天皇が祀られているが、崇道天皇のみをご祭神とするのはここだけ。

怨霊早良親王について

早良親王（さわらしんのう）は、奈良時代の皇親、僧侶。光仁天皇の皇子で、母は高野新笠。桓武天皇、能登内親王の同母弟。桓武天皇の皇太子に立てられたが、藤原種継の暗殺に関与した罪により廃され、絶食して没した。崇道天皇（すどうてんのう）と追諡されたが、皇位継承をしたことはないため、歴代天皇には数えられていない。その後の桓武天皇の周囲に不幸が続いたことから、早良親王の怨霊が祟り、平安遷都へとつながったとされています。



小野神社

崇道神社の社殿のある裏山に、小野毛人（えみし）の墓が発見され、昭和46年（1971）に地元の人により崇道神社の境内社として小野神社が再建されました。

氷室神社

「西氷室大明神」「西氷室神社」とも呼ばれた。周辺に氷を産した氷室跡、氷池跡などが残されている。氷室の産土神になる。

祭神は稲置大山主神（いなぎおおやまぬしのかみ）を祀る。第15代・応神天皇皇子・額田大中彦皇子（ぬかたのおおなかつひこのみこ）に氷を献上したという伝承がある。

古来より、痘瘡（とうそう、天然痘）除けの神として信仰された。

京都市北区西賀茂氷室町

●崇道神社に参拝し写真を撮った時、私のスマートフォンの画面が逆さになってフリーズし、少しの間使えなくなって驚いた。とても強いご神気で都を守ってくれているのだろう。貞観年間（859年～877年）に創建されたということは、貞観地震が日本各地で起こっていた時代。怨霊早良親王の霊を鎮めるために崇道神社は創建された。同じ頃、須波神（朝日岳信仰）に従五位下を授けたと『日本三大実録』に記録されている。貞観地震は相当に恐れられていたのだろう。しかし、霊を鎮めるのは分かるが、なぜ鬼門に配置したのだろうか。鬼vs怨霊。鎮めるとともに都を守ってもらうという、なんとも都合のいい考え方に思えたが、早良親王が亡くなってから75年以上も後のこと。すでに神の存在になっていたからだろうか。

●武神ではない氷を献上した稲置大山主神の氷室神社では、鬼門を守る祭祀線の神として役不足に感じ、たまたま偶然なのではと思ったが、きれいな正三角形の祭祀線はこれまでも度々登場するので有りだと思った。調べると、痘瘡（天然痘）除けの神としても信仰されていると。貞観の不穏な時代に病氣から守ってくれる神と結ぶことは大変納得できた。

●鬼門のラインは一条戻橋も通過している。安倍晴明が式神を橋の下に住まわせていたのは有名な話。調べると大正時代、橋の架け替え時に石棺が発掘されている。鬼門の人柱として誰かが埋葬されていたのではないかな。

●さて、この鬼門の先、丑寅の方角の鬼はどこに棲んでいるのか？ 平安京は誰を恐れていたのか？
ラインを東北に伸ばしてみた。
すると…

■ 平安京大極殿 →→→ 一条戻橋 →→→ 崇導神社 →→→ 大沼浮島 弁天島



■大沼浮島 弁天島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。写真は手前に浮島、奥に弁天島（出島）。山形県西村山郡朝日町大沼



●浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。しかも波を立てずに動く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福も連れてきた海童たちも蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の島居の立つ「弁天島（出島）」（写真）が起点となっている。

大沼浮島は、全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫（瀬織津姫）が祀られているのも本来はこの分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

■大行院

別当大行院（大沼大坊）は役の証覚の弟子覚道の直系であり、現当主の最上氏は54代目を数えます。浮島稲荷神社は、源家、徳川家、大江家、最上家など時の権力者の尊崇厚く祈願所として加護を受けてきたことから、多くの貴重な文書が所蔵されています。『大谷郷』より抜粋

浮嶋稲荷神社及び別当大行院略年表

年 号	西 暦	事 項
白鳳 9年 (天武)	680	役の証覚大師が天武帝の命を受け山岳修行中、大沼浮島を発見。弟子覚道をこの地にとどめ草創したと伝える。
和銅 元年	708	覚道が浮嶋宮を建て大沼大坊（後の大行院）の開祖となる。
天平 11年	739	僧行基大沼を訪れ浮島の島数六十六を日本国数にたとえ国名を付けた。
長徳 元年	995	藤原実方朝臣、浮島を拝し二首の歌を詠んだと伝える。
康平 5年	1062	源頼義・源義家(1091)には調伏の祈禱を行う。
建久 4年	1193	大江広元のすすめにより源頼朝の祈願所として本殿を再建する。
建武 2年	1335	寒河江城主5代大江親広の孫頼広、大沼大坊に入り雄尊と号し28代を相続する。これより姓を大江とする。
応永 20年	1413	寒河江城主12代大江為広、浮嶋宮本社再建する。

●ラインは朝日岳修験の拠点だった大沼浮島の「弁天島（出島）」にピンポイントでつながった。平安京の鬼は、朝日岳信仰だった…。

しかし、645年の大化の改新の後、山形はすでに陸奥国に平定されている。その後で出羽国となり、最後に出羽国の蝦夷が反乱を起こしたのは709年。桓武天皇が平安京を作ったのは794年。征夷大將軍の坂上田村麻呂に征圧されアテルイとモレが斬首されたのが802年。平安京は、大沼浮島を鬼ではなく鬼門の守りとし、その位置に大極殿を置いたということになる。その後清和天皇時代に崇道神社を創り。その100年後に安倍晴明が一条戻橋に式神を置いた。

●興味深いのは、別当大行院（大沼大坊）の屋敷もみごとに通過している。平安京の守りのために、この場所を大沼弁天島の祭祀場としていたことがわかる。行基が訪れ浮島に日本中の国の名前を付けていった呪術的な歴史もあるから、やはり古くから都の守りとされてきたのだろう。



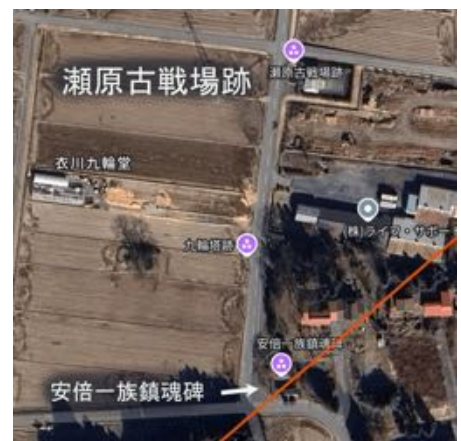
●大沼の東北にはどんな鬼がいるのか？ さらに東北にラインを伸ばしてみた…



●アテルイ・モレと坂上田村麻呂の戦いの場であり、安倍家と源氏の戦いの場でもある岩手県奥州市を経て、早池峰山のふもと遠野市に至った。

奇しくもラインは、前九年の役の最大の激戦地であった衣川の瀬原古戦場跡にある安倍一族鎮魂碑の上を通った。近年の建立らしいのできっと裏歴史を知る人たちによるものだろう。

やはり鬼は、東北に残っていた「まつろわぬ民」蝦夷の出雲王国「日高見国」だった。大沼の浮嶋稲荷神社の年表には「源頼義・義家（1091）には調伏の祈禱を行う」とあるが、残念だがこれは「源頼義・義家の前九年の役（1091）には調伏の祈禱を行う」が正解だろう。同じ時に近くの大谷白山神社には源頼義が武運長久を祈願したと伝わっている。



（2025.5月 加筆修正）